

スマート・ターミナル・シティさいたま実行計画（さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム）

■ 事業のセールスポイント

駅を核とした**スマート・ターミナル・シティ**を目指し、AI・IoT等のスマート化技術や官民データの活用により、地域課題・ニーズにきめ細かく対応しながら、①健康で環境にやさしい**脱クルマ依存型生活行動**を支え、**地域回遊性を高めるモビリティサービスを充実**させるとともに、②モビリティと**地域経済活動が連携した「ライフサポート型MaaS」**を構築・実装し、③**3D都市モデル**も活用した**スマートプランニング**の高度化・実践により**ウォーカブルな都市空間・環境**の形成を促進する。

■ 位置図



■ 本事業全体の概要

○ スマートシティで解決したい都市インフラ関連の課題

市全域	中心市街地 (先行モデル：大宮駅・さいたま新都心駅周辺)	郊外住宅地 (先行モデル：美園地区)
<ul style="list-style-type: none"> ① 幹線道路の慢性的な交通渋滞の解消 ② コロナ禍・Postコロナにおけるライフスタイル・価値観の変化に合わせた移動手段の充実とモード間連携・地域連携による公共交通の利便性向上・地域活性化 ③ 自家用車から徒歩・自転車・公共交通への行動変容促進 ④ 駅周辺におけるウォーカブルな都市環境の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 鉄道駅周辺の慢性的な交通渋滞の解消 ⑥ 東日本の玄関口としての交流拠点形成 ⑦ 大宮－さいたま新都心間の回遊性向上 ⑧ 商都大宮をはじめとするまちのにぎわい再生 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 生活拠点施設へのアクセス改善 (自家用車に依存した生活行動の解消) ⑩ 交通弱者の外出機会の創出 (新型コロナウイルス感染症に伴い外出機会が一層減少)

○ 課題解決の方向性

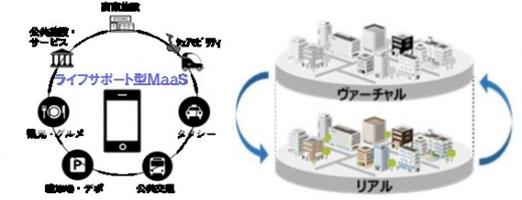
駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」

さいたま市のスマートシティのコンセプト「市民のウェルビーイングな暮らしを実現するスマートシティさいたま」の構築に向け、駅を核としたウォーカブルでだれもが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を形成



○ 実施する施策

- 施策① 健康で環境にやさしい脱クルマ依存型生活行動を支え、地域回遊性を高める(モビリティサービスの充実)**
 - シェア型マルチモビリティの導入 - AIオンデマンド交通の導入
- 施策② モビリティと地域経済活動が連携した(ライフサポート型MaaSの構築)**
 - モビリティを軸にしながら、買い物等のサービス・データを連携・統合
- 施策③ スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成**
 - ライフサポート型MaaSから得られるデータ等を活用したスマート・プランニングにより施設配置や空間整備等、最適な空間計画を実現



■ 対象区域の概要

- 名称：さいたま市
- 面積：約217.4km²
- 人口：約133万人

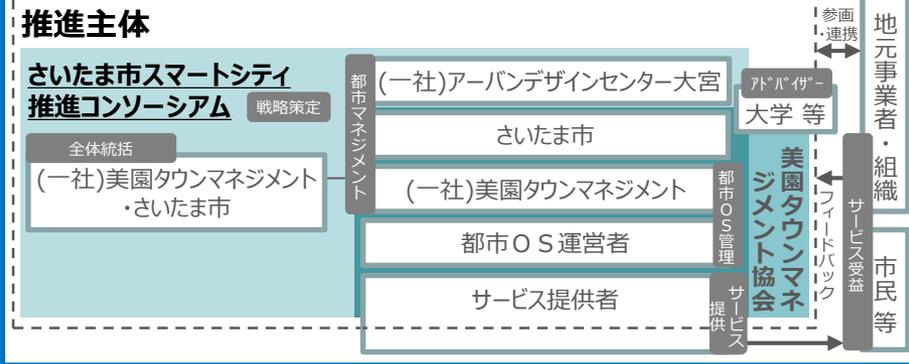
■ 対象区域のビジョン

- **上質な生活都市**
 全ての人があわ寄せを実感し、自らが暮らすまちに誇りを感じることができる都市
- **東日本の中枢都市**
 市民や企業から選ばれ、訪れる人を惹きつける魅力にあふれる都市

■ スマートシティの目標(KPI)

KPI	現況値	目標値
まちなかの滞留人口・時間	-（取組の中で計測）	-（取組の中で計測）
交通利便性への満足度	57.8%（R2）	64.0%（R7）
自動車分担率(市全体)	26.8%（H30）	現況からの減
グリーンポイント発行量	0ポイント	-（取組の中で計測）
店舗売上	-（取組の中で計測）	-（取組の中で計測）
身体活動量	-（取組の中で計測）	-（取組の中で計測）

■ 運営体制



■ 導入技術

施策① モビリティサービスの充実

- シェア型マルチモビリティ**（中心市街地型モデルで先行実証）
 - 主に在住者、在勤者の移動の利便性向上や、都市の回遊性、環境負荷の軽減などを両立する新たな都市交通システムとして、**複数モビリティのシェアリングサービス**を展開。
- AIオンデマンド交通**（郊外住宅地型モデルで先行実証）
 - 既存交通を補完し、多様な地域ニーズに柔軟に応えながら**脱クルマ依存型生活行動**を支える移動手段として、**AIがリアルタイムで最適な配車を行う**オンデマンド交通サービスの新規導入



施策② ライフサポート型MaaSの構築

- モード間連携**
 - 路線バスなどの**既存の公共交通とシェア型マルチモビリティ等新たなモビリティサービスとの連携**(MaaS、ポート配置、配車等)による移動の総量の増加・更なる利便性の向上。
 - 鉄道事業者とシェア型マルチモビリティとのアプリ連携も想定。
- 地域経済連携**
 - **HELLO CYCLING**アプリやAIオンデマンド交通サービスの予約アプリにおいて**商業施設やキッチンカー等の情報を発信**(及びアプリ相互で情報発信連携)し、外出のきっかけ作りによりバス・シェアサイクル等公共交通の利用促進と地域消費を誘発。



施策③ スマートプランニングによるウォーカーブルな都市空間・環境の形成

- スマートプランニング高度化**
 - 歩行者の移動量、滞留量とさいたま市3D都市モデルデータを活用した日影の投影範囲分析の重畳による**快適な移動空間、滞留空間評価モデルの構築・実証**。**デジタルツインによる都市基盤整備**。
 - 市民ニーズの収集・分析・施策反映のスマートな仕組み作り(**プランニングプロセスの高度化**)。



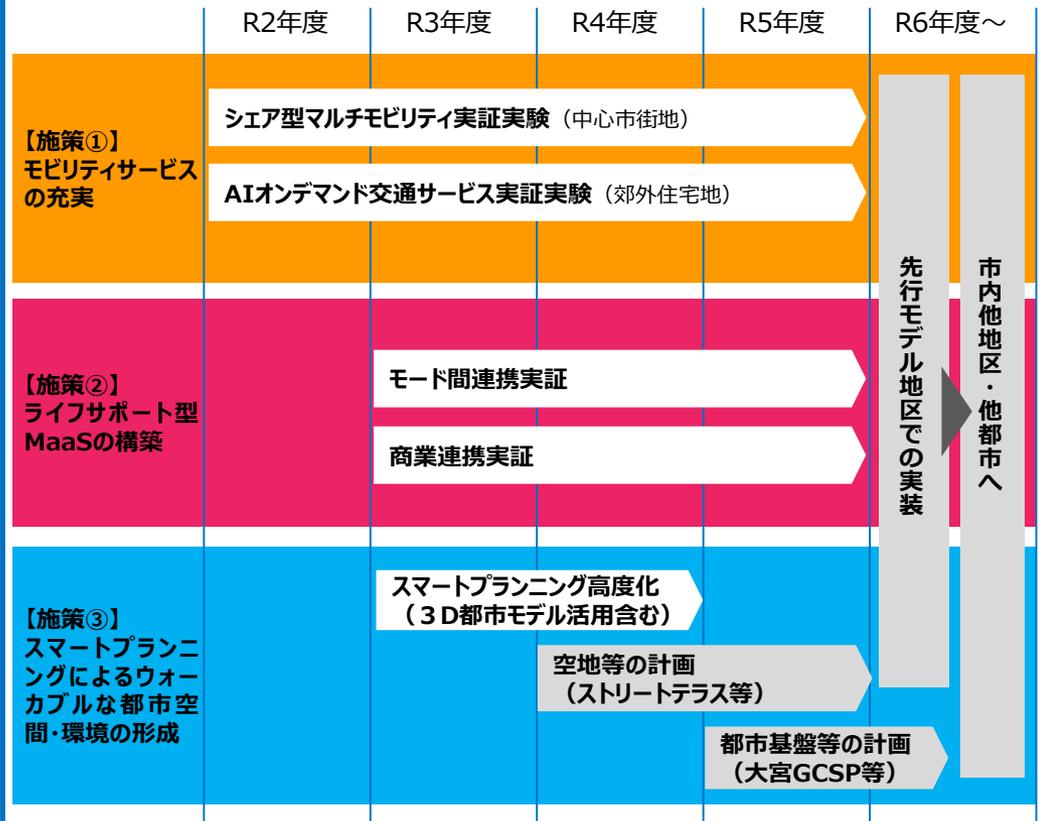
■ビジネスモデル

- ・ 施策①「モビリティサービスの充実」、施策②「ライフサポート型MaaSの構築」と、施策①、②から得られるデータを活用した施策③「スマートプランニングによるウォークラブルな都市空間・環境の形成」のサイクルを継続して実践することを目指す。
- ・ また、「美園タウンマネジメント協会」にて都市OS「共通プラットフォームさいたま版」の開発・実証が進められており、本実行計画においても同基盤と各種サービスのAPI連携を含めたデータ連携について検討していく。
- ・ さらに、市内先行モデル地区である「大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区」、「美園地区」では、アーバンデザインセンターを拠点に各地区特性に応じた地域プレイヤー参画・連携によるまちづくり事業スキーム構築が試行されており、持続可能な地域経営を実現していくために市民や企業を巻き込む体制・仕組みづくりを推進。スマートシティ推進の基盤としていく。

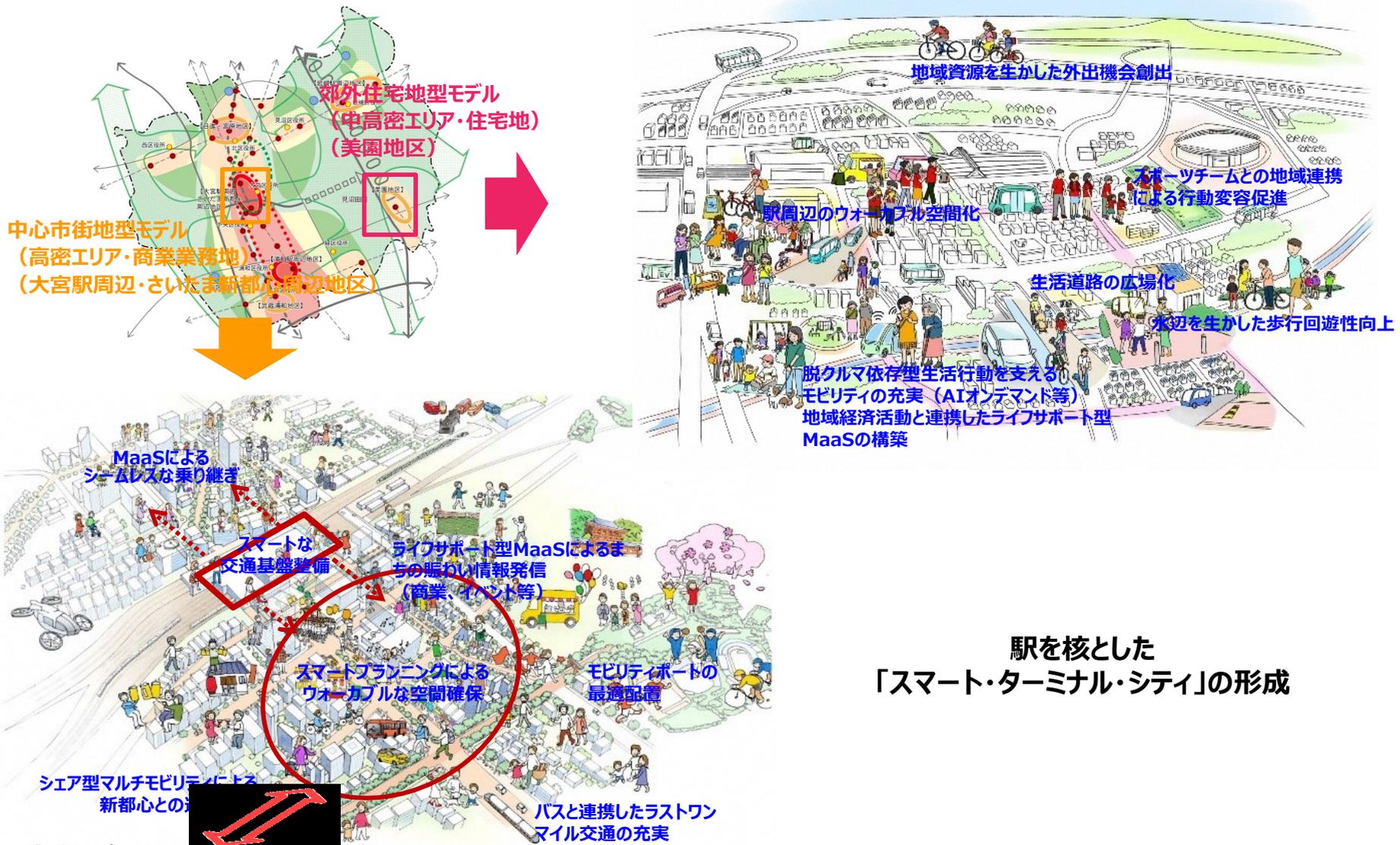
施策	持続可能な取組とするための方針
【施策①】モビリティサービスの充実	各種モビリティから得られる移動データ等の活用や、市民ニーズの的確な反映等によるポート配置等サービス設計の最適化、また、地域の受益者との協働により、効率的で持続可能なサービス運営を実践していく。
【施策②】ライフサポート型MaaSの構築	各種モビリティ事業者や地域事業者等がメリットを享受できるようなMaaSの仕組みを構築していく。
【施策③】スマートプランニングによるウォークラブルな都市空間・環境の形成	施策①、②において継続的にデータを取得できる（民間事業者の中でクローズされない）運営体制を構築するとともに、それらを含めた各種データや3D都市モデル等を活用したスマートプランニング手法の高度化を図り、デジタルツインにより都市基盤（実空間）をウォークラブルな環境としていく。

■スケジュール

- ・ スマートシティ先導モデル都市となるべく、地域のニーズを把握し、きめ細かなに対応ながら、社会実装と横展開を意識した取組を推進。
- ・ 中心市街地型として大宮駅周辺・さいたま新都心駅周辺地区、郊外住宅地型として美園地区の2地区をさいたま市内のスマートシティ先行モデル地区とし、各種実証実験と検証を実施。得られた成果を市内他地区や他都市へ展開していく。
- ・ 施策①モビリティサービスの充実、施策②ライフサポート型MaaSの構築については、市内先行モデル地区においてR6年度の社会実装を目指す。また、官民データ（施策①、②から得られるデータ含む）や3D都市モデルを活用しながら、スマートプランニングを高度化し、その実践によりウォークラブルな都市空間・環境の形成を推進する（施策③）。



■将来イメージ



駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」の形成

※「大宮GCSプラン2020」のまちの将来像イメージより作成